會務

土木學會誌　第十卷第二號　大正十三年四月

○大正十三年二月十五日役員會を開き中山會長 岡野,丹羽の兩副會長池田,川上,後藤竹內,伴の各常議員丹治主事金森編輯委員長川口,谷井,山崎,平井の各編輯委員出席中山會長議長席に着き下記事項を決議せり

△大正十三年度豫算の流用を承認すること

△來る三月一日午後四時より講演會を開くこと其講演を會員小川織三君同加賀山學君同曾山親民君同竹內季一君に依頼すること

△煉瓦規格統一案に關し工業品規格統一調査第二部長より本會意見回示方の照會に對しては岡野副會長を委員長に推し會員青山士君同川口愛太郎君同竹內季一君同伴宜君に委員を囑託し審議の上回答を爲すこと

△故工學博士石黑五十二氏功績記念資金募集委員より本會基金に帝國五分利公債額面金七千圓也の寄附申込ありたるに付本會は之を受納することとし挨拶狀を發すること

其他會務に關する事項

前記挨拶狀

拜啓故工學博士石黑五十二氏功績記念の爲募集相成候金員御遺族の御意見に基き本會の基本財產中に帝國五分利公債額面金七千圓也御寄附被下難有正に受領仕候右は故石黑工學博士記念基金の名稱を附し本會基金に編入し御來示の目的に充用可致候茲に本會を代表し謹みて謝意を表し候　敬具

大正十三年二月十五日

社團法人土木學會

理事　工學博士　中山秀三郎

同　同　岡野昇

同　同　丹羽鋤彥

故工學博士石黑五十二氏記念資金募集實行委員

丹羽鋤彥殿	高橋辰太郎殿	中原貞三郎殿
中川吉造殿	中田敬義殿	永井專三殿
野村龍太郎殿	日下部辨二郎殿	眞島健三郎殿

男爵古市公威殿　古川阪次郎殿　福井菊三郎殿
近藤仙太郎殿　仙石貢殿

又遺族に對する挨拶狀

拜啓時下愈御淸穩の段大慶此事に奉存候陳者曩に故石黑博士功績記念の爲知友相謀り募集相成候金員「帝國五分利公債額面」金七千圓也御遺族の御意見に基き實行委員より本會の基本財産中に御寄附相成難有受領仕候右は故石黑工學博士記念基金として永く保存可致右御報告旁御挨拶迄如斯御座候　敬具

大正十三年二月十五日

社團法人土木學會
會長　工學博士　中山秀三郎

石黑九一殿

○同年二月二十六日編輯委員會を開き金森委員長川口,平井,谷井,山崎の各委員 井上,丹治兩主事沼田囑託出席會誌編輯上に付協議を爲せり

○同年三月一日午後四時より麴町區有樂町一丁目一番地帝國鐵道協會に於て第三十三回講演會を開催し下記の講演ありたり當日は中山會長外役員會員及會員外のものとも併せて百六十餘名の來聽者ありたり尙閉會後同所に於て晩餐會を開き九十一名の出席者あり盛會裡に同八時散會せり

演題　震災に關する被害並に應急處置の概況

會員　小川織三君
同　加賀山學君
同　曾山親民君

○同年同月十三日役員會を開き中山會長丹羽副會長 池田,稻垣,川上,後藤,竹內,八田伴の各常議員原田前會長井上,丹治兩主事川口,平井,牧野の 各編輯委員出席中山會長議長席に着き左記事項を決議せり

△川崎工場主男爵川崎寬之氏より本會の趣旨を贊成し研究調査の資金として金參千圓也（每年六月及十二月の二回に分ち各五百圓宛三ヶ年間に分納）の寄附申込ありたるを以て本會は之を受納することとし下記挨拶を爲すこと尙同氏を贊助員とすること又右金員は震害調査費用に充當すること

△本會會誌從來縱組なりしを第十卷第一號より之を橫組と爲すこと

△來る四月十一日午後四時半より麴町區有樂町帝國鐵道協會に於て第三十四回講演會を開催することとし前回講演會にて時間の都合に依り中止せられたる會員工學博士竹內季一君及同直木倫太郎君に右講演を依頼すること尙講演會終了後同所に於て晩餐會を催すこと

△本年催すへき「エキスカーション」は東京市村山貯水池を視察すること

其他會務に關する事項

上記川崎男爵に對する挨拶狀

拜啓　貴社益御隆盛の段慶賀此事に奉存候陳者今般貴社本會の趣旨に御賛成の上研究調査の資金として金參千圓也毎年六月及十二月の二回に分ち各五百宛三ケ年間に分納御寄附可被成下旨御申越の義有難拜受仕候就ては右金員は目下本會に於て委員を設け鋭意調査中に係る這般の震害調査費用に充當可致に付右に御了知相成度茲に役員會の決議に基き厚く感謝の意を表し候　敬具

大正十三年三月十四日

社團法人土木學會

會　長　工學博士　中　山　秀　三　郎

川崎工場主男爵川崎寛之殿

○同年同月二十四日編輯委員會を開き川口平井牧野谷井の各委員丹治主事沼田囑託出席會誌編輯上に付協議を爲せり

○同年四月九日編輯委員會を開き川口平井牧野谷井山崎の各委員沼田囑託出席會誌編輯上に付協議を爲せり

○同年四月十一日土木學會誌第九卷第五、六號發行成規の屆出をなし同日各會員に配付せり

○准員右橋不二生君は「白石」と學生員梅原孫兵衛君は「達也」と改氏名せられたる旨屆ありたり

○下記の諸氏は退會せられたり

會員渡邊信四郎君　　准員石角建之助君　　同　伊藤盛太郎君

准員谷口久三郎君　　同　多賀槌太郎君　　學生員尻高茂壽君

○大正十三年三月十六日以降四月十五日迄に入會を承認し名簿に登錄したるもの左の如し{○印は准員 △印は學生員 より轉じたるものを示す}

會　員　　（六名）

遠藤善十郎君　久保田正雄君　佐々木哲二君
長澤　達君　○林　助一君　姫野健一君

准員　(二十六名)

粟根信行君　飯田正熊君　伊藤二郎君
伊東清一君　今泉重清君　江連　清君
小野口貞君　片桐　元君　鎌田銓一君
喜多權次郎君　木戸義男君　小林　幹君
近藤三次君　佐川喜久壽君　櫻井源三郎君
佐藤盛亮君　澁谷順作君　清水　鐵君
竹下巖之助君　田中誠一君　△寺田　悌君
長谷川章平君　山田金三郎君　吉川義太郎君
平木爲春君　廣龍常雄君

學生員　(二名)

伊藤美代治君　中矢隆雄君

○大正十三年二、三、四月中寄贈及交換を受けたる雜誌其他下記十五種なり

寄贈を受けたる分

シビル	第三卷第一、二號	二冊	シビル社
工政	大正十三年自一號至四號	四冊	工政會
工業評論	第二、三號	二冊	工業評論社
水力學		一冊	早稻田大學出版部
水曜會誌		一冊	水曜會
仙臺高等工業學校紀要		一冊	仙臺高等工業學校
自大正十二至三年京都帝國大學一覽		一冊	京都帝國大學

交換の分

造船協會雜纂	第三三號	一冊	造船協會
鐵と鋼	自一號至三號	三冊	鐵鋼協會
建築雜誌	第三八輯第四四九號及大正十三年三月號	二冊	建築學會
業務研究資料	第十二卷第二、三號	二冊	鐵道大臣官房研究所
工業化學雜誌	第廿七編第三、四號	二冊	工業化學會
電氣學會誌	第四二六號	一冊	電氣學會

帝國鐵道協會々報 第廿五卷第一號	一冊	帝國鐵道協會
機械學會誌	一冊	機械學會

准員海老澤萬作君は正大十三年三月二十九日同齋藤實貞君は同年同月十日同佐伯辻之助君同猿橋篤太郎君同杉浦進君同武居正治君同富田純一君同吉次茂七郎君同升川次郎君(月日不祥)同吉田葆君は同年一月死去せられたり本會は哀悼の意を表す

土木學會震害調査委員會及土木學會高速度鐵道調査委員會記事

○第十卷第一號會務中震害調査委員會囑託人名中伊藤常夫君掲載洩れに付追載す

○大正十三年一月二十九日土木學會震害調査委員會第一回委員總會を開き中山會長廣井委員長 安藝,朝倉,阿部,雨宮,伊藤,稻垣,小川,彭城,眞田,清水,白石,鈴木竹內,立川,田村,中野,那波,能見,原伴,平山,福田,眞島,物部,森,谷井,山內,渡邊英保代(市江良雄)の各委員井上,沼田の兩幹事出席協議の結果下記の通り部門を設け各部に主査を置くこととせり

第一部會	河川、灌漑、砂防、運河、港灣、	主査	安藝杏一君
第二部會	橋梁、建物	同	物部長穗君
第三部會	上下水道、瓦斯工事	同	杉浦宗三郎君
第四部會	鐵道軌道	同	那波光雄君
第五部會	電氣關係土木工事	同	森忠藏君
第六部會	道路	同	牧彥七君

○同年二月八日土木學會震害調査委員會第一回主査會議を開く廣井委員長安藝物部,杉浦,那波,牧の各主査沼田幹事出席す

○同年同月十二日同上第三部會第一回委員會を開く杉浦主査小川,河口,高橋,中野能見,原伴,茂庭,渡邊(扶)の各委員沼田幹事出席す

○同年同月同日同上第四部會第一回委員會を開く那波主査伊藤,稻垣,白石,曾山,竹內,丹治,手塚,溝口,山田の各委員沼田幹事出席す

○同年同月十三日同上第二部會第一回委員會を開く物部主査雨宮（代小西）內田（代伊豫）大河戸,樺島,清水,竹村,立川,田中,內藤,那須,福田（代宍道）藤田,眞島谷井の各委員沼田幹事出席す

○同年同月二十日同上第三部會第二回委員會を開く杉浦主査稻葉乾小川河口高橋中野原伴の各委員沼田幹事出席す

○同年同月二十五日同上第一部會第一回委員會を開く安藝主査靑山雨宮石川稻葉眞田清水（代水野）田村伴の各委員沼田幹事出席す

○同年三月三日同上第三部會第三回委員會を開く高橋中野原伴の各委員沼田幹事出席す

○同年同月八日同上第六部會第一回委員會を開く牧主査雨宮高田（代平川）竹內伴平山（代竹中）藤田藤宮（代緒方）牧野百瀨（代川勝）の各委員沼田幹事出席す

○同年同月二十日同上第六部會第二回委員會を開く牧主査高田（代桝井）竹內（代山本）伴平山（代中島）藤田牧野渡邊英保（代片桐）の各委員沼田幹事出席す尙同日下記四名に對し該委員を囑託せり

奥田孝六郎君　宍戸七郎君　三浦七郎君　山本　享君

○同年同月二十五日同上第四部會第二回委員會を開く中山會長那波主査朝倉（代國富）伊藤稻垣竹內丹治手塚溝口山田の各委員沼田幹事出席す

○同年四月四日同上第五部會第一回委員會を開く森主査神原彭城鈴木高橋萩原の各委員井上沼田兩幹事出席す

○同年同月七日同上第六部會第三回委員會を開く牧主査清水（代水野）伴平山藤田牧野渡邊英保（代松岡）の各委員沼田幹事出席す

○同年同月十日山口義彥君に委員を囑託す

○同年同月十五日辰馬鎌藏君に委員を又熊坂昌輔君に第五部會事務を依囑せり

○同年二月六日土木學會高速度鐵道調査委員會事務を土井源三良野坂相如の兩君に依囑せり

○同年同月六日土木學會高速度鐵道調査委員會第一回總會を開く那波阿部伊藤池田大河戸後藤曾山田中竹內丹治手塚西八田伴古川（淳三）物部の各委員沼田幹事出席古川（阪次郎）委員長缺席に付那波委員委員長代理として協議の結果下記の通り分科を設け各分科に主査を置くこととせり

第一分科　路線網撰定　主査　曾山親民君

第二分科　樣　式　同　那波光雄君

○同年同月十三日同上第一分科第一回委員會を開く古川委員長曾山主査伊藤池田太田竹內丹治伴の各委員沼田幹事出席す

○同年同月十四日同上第二回總會を開く古川委員長伊藤大河戸太田草間白石田中手塚那波古川(淳三)物部山崎山田の各委員沼田幹事出席第一分科及第二分科の區別を廢し新に特別委員會を設け大河戸委員を主査と爲すこと

○同年同月十四日同上第一回特別委員會を開く大河戸主査田中古川(淳三)物部山崎の各委員沼田幹事出席す

○同年同月二十二日同上第二回特別委員會を開く古川委員長大河戸主査田中西古川(淳三)物部山崎の各委員井上沼田兩幹事土井野坂の兩事務囑託出席す

○同年同月二十九日同上第三回特別委員會を開く古川委員長大河戸主査田中手塚古川(淳三)物部山崎の各委員沼田幹事土井野坂の兩事務囑託出席す

○同年三月七日同上第四回特別委員會を開く大河戸主査田中手塚西物部山崎の各委員沼田幹事土井野坂の兩事務囑託出席す

○同年四月十二日同上第三回總會を開く中山會長古川委員長阿部(代內村)池田伊藤大河戸太田草間曾山田中竹內丹治手塚那波西古川(淳三)物部山田の各委員沼田幹事出席す

新入會者にして既刊會誌希望者に告く

本會々誌は新入會者には入會の月より以降發行に係るものより配付致すべきに付其の以前の會誌御希望の場合は一部に付下記金額振替口座東京一六八二八に拂込用紙通信欄に其旨記入し請求せられたし

殘　部　內　譯

第五卷一號二號	一部金壹圓
第六卷三號六號	同
第七卷一號二號三號四號五號	同金壹圓五拾錢
第八卷一號二號三號	同金　貳　圓
第九卷一號二號三號	同金　貳　圓
第九卷五、六號	同金　貳　圓
第十卷一號	同金　貳　圓
東京市內外交通に關する調査書殘部あり	金　參　圓

本會會員轉居又は旅行の場合の注意

各員の宿所の不明なるときは會誌の配付を始め其他通信上に差支候に付御轉居の際は至急明細に御通知相成度又御旅行等にて御不在となるも會費の支拂には差支なき樣御配慮相成たし

會費納付に付注意

本會々費は下記の通りにして本會より發する振替集金に對し必ず御支拂の事若し此の集金書へ十五日間中三回の取立共支拂なき場合は最寄郵便局に就き本會振替口座東京一六八二八番に（拂込用紙通信欄に會費たる事を記入の事）御拂込相成度尙整理の都合有之候に付會費一時納付の御豫定又は其の他の都合に依り支拂なき場合は直に御通知相成たし

朝鮮滿洲の一部及び靑島等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末頃送集金を受けざるときは爲替其他の方法に依り直ちに御送金相成たし

會員種格	會費年額	自一月至四月 第一期分二月 徵收	自五月至八月 第二期分六月 徵收	自九月至十二月 第三期分十月 徵收
會員	金拾八圓	金六圓	金六圓	金六圓
准員	金拾貳圓	金四圓	金四圓	金四圓
學生員	金七圓五拾錢	金貳圓五拾錢	金貳圓五拾錢	金貳圓五拾錢

新に入會したるものは月割計算とし入會の翌月集金書を發す

會費未納に付注意

會費は從來年額を第一期第二期第三期に分割し每年二月六月十月に振替貯金集金郵便として取立方を郵便局に依託の處往々集金郵便に對して故なく支拂を拒絕し尙他の方法に依りても送金なき者あれ共斯くては會費滯納者として遺憾ながら規則第十三條第一項に依り遂に會誌の配付をも停止せらるに至るべく又本會に於ても未納金督促の手數一通ならず故に今後右樣のことなき樣特に御留意の上集金郵便に御拂込相成たし

會誌未着の場合の注意

會誌は每年二月四月六月八月十月十二月（印刷又は原稿等の都合に依り翌月上旬配付の事あり）に發行し漏なく配付すべきに付翌月末頃未着の場合には一應本會に御照會相成たし從來往々發行後數ケ月經過して照會せらるゝ向あるも斯くては殘部皆無となり遺憾ながら配付不可能のことあるべきに付御留意相成たし

領收報告 自大正十三年一月十六日 至大正十三年三月十五日 間受付分（受付順）

會員大正十二年度第三期分會費

金六圓宛

能見光男　廣中一之
小柴保人　福田次吉
山岸安二　彭城嘉津馬
森田一郎

會員大正十三年度第一期分會費

金六圓宛

金井彥三郎　福田次吉
青木勇　坂田九郎
安藤新六　安倍強
生駒勇　秋元繁松
伊藤誠吉　石黑弘毅
內海清溫　井上絕
大井田瑞足　上倉俊
小川東吾　太田圓三
小野榮作　岡部榮一
堅田務　金古久次
木村芳人　片野文吉
國澤新兵衛　倉橋忠志
阪本助太郎　小松烋三郎
白石多士良　佐々木恒太郎
鈴木軍藏　澁谷競多
田中吉政　鈴木義多郎
高坂淺吉　高橋辰次郎
都々木春美　田邊朔郎
戶原與四郎　鶴田勝三
內藤定馨　戶谷亥名藏
仲野雄介　中村秀太郎
原口要　中西錬次郎
廣瀨一郎　橋本敬之
細野芳彥　古川阪次郎
丸山照六　曲尾辰二郎
宮本武之輔　三根奇能夫
森井健介　村瀨花之亮
山口準之助　山口義彥
渡部謙吉　吉村惠吉
石橋絢彥　和田忠治
五十嵐三郎　犬飼壽太郎
上山善司　石田昌平
大竹邦平　衣斐清香
勝又愛治郎　大久保敏行
金森鍬太郎　神原信一郎
藏重哲三　北澤忠男
近藤皎　後藤敬吉
近藤博夫

小柴保人　山岸安二
武和三郎　丸田覺
有元岩鶴　淺井芳之助
青木壽　磯村利水
石川源二　伊藤常夫
井上親雄　植木平之允
遠藤藤吉　尾崎昌盛
小川梅三郎　奧村節二
大窪正　大村銷太郎
加賀山學　掛札季藏
景山質　菊池忠藏
熊谷直道　久保田敬一
後藤佐彥　彭城嘉津馬
佐藤英夫　島崎孝彥
下村尙義　杉村博通
杉浦宗三郎　杉井和一郎
橋英三郎　橋協
高石庫治　田島眞吉
寺崎新策　手塚善
利根川隆吉　東福寺正雄
中山忠三郎　長崎敏晉
西池氏文　西大條覺
濱田東稻　平瀨三雄
古川晴一　藤宮惟一
牧野雅樂之亟　眞島健三郎
三輪周藏　三田善太郎
村山龜一郎　百瀨國三郎
山本直三郎　山內伊平
米元晉一　渡部英太郎
荒木文四郎　有光兎茂喜
井上二郎　今井義和
石坂二郎　鵜飼賢一
岡崎芳樹　小川八助
大串榮太郎　河野天瑞
神田政市　河原直文
草地喬　釘宮磐
古藤猛哉　小平保藏
阪田時和　境田賢吉

志賀僑介
高西敬義
土屋峯吉
德永保喜
西出辰次郎
松永工
宮島三郎
山內治平
山本潔
吉田傳七
臼井定民
小田川全之
奥平清貞
久米民之助
清水一德
塚本積
南部常太郎
內藤多伸
沼田尙德
平山復二郎
三野熊雄
山田正隆
池神重政
井上幸一
上山元市
江澤甚一
奥中喜代一
神門久太郎
桑邱茂
定村匡祥
新開壽之助
杉谷幸藏
田邊良忠
高桑藤代吉
寺本千太郎
八田嘉明
正田敏夫
峰村國吉
溝口潔夫
山本亥太郎
靑木善馬
池田信

飯訪部博
田村啓三
土田鐵雄
中村猪市
原全路
松田文次
宮崎正夫
山下齊治
吉本龜三郎
渡邊英隆
大村卓一
小川英次郎
筧斌治
坂本一平
鈴木善之助
土井良太郎
永井專三
永井松次郎
野澤房敬
前田與市
村瀨英一
渡邊六郎
岩井芳通
岩淵英之助
宇野保三
折原佐十郎
小川敬次郎
衣川清一
倉塚良夫
相良守
新海榮一
關屋忠正
高橋孝
田井九一
直木倫太郎
服部鹿次郎
二木重吉
三浦鍋太郎
三宅次郎
山口昇
安藝杏一
今井久吉

杉山榮
高木剛三
鳥越金之助
中瞿伊勢吉
藤田周造
宮川清
三輪經治
山田隆二
吉田耕一
井上伊次
大井上前雄
小山友直
北尾傳
坂口榮禎
鈴木一
那須章福
中原貞三郎
丹羽鋤彦
伴宜
水野五郎
森忠藏
荒井綠
岩崎盾夫
池邊稻生
內田黍郎
大河內甲一
加藤與之吉
木村貫一郎
久門雄二
櫻山壯次
澁谷源吉
關川潔
瀧野雁一
津田安治郎
中島健吉
平野武文
福田十太郎
三浦七郎
宮內義則
渡邊信四郎
靑木朝太郎
植原勇

谷口三郎
坪田嘉平治
富永正義
中島麟太郎
保原元二
三浦矩明
武笠清太郎
矢內信護
吉田直
池田勝藏
大井治男
奥田助七郎
北澤惇夫
齋藤孝二郎
田川正二郎
並川熊次郎
中村元
西光正雄
林愛士
見田勇吉
山內喜之助
阿部美樹志
池原英治
上村爲人
遠藤金市
大岡大三
鴨居啓三郎
黑瀨義一
小阪拓次郎
澤田梅太郎
榛葉孝平
十川嘉太郎
鷹取篤三郎
鶴見一之
野田虎男
東森藏
松永幸一
三池貞一郎
森寬太郎
和田堯春
池田篤三郎
岡部三郎

負他倍造
神谷秀吉
栗原唯喜
清水潔
平野正雄
三浦慶次
山本新次郎
大久保清長
小林彦次
島重治
田崎修
福留亜喜
雨宮弘一
上野有芳
後藤茂
高田景
濱野直義
松島寛三郎
市江敏
奥村長作
久保田實
高橋嘉一郎
中村廉次
濱野彌四郎
福田稔
山口十一郎
新井榮吉
小川織三
丹治經三
本間英一郎
岩井宇一郎
加藤勇
工東三郎
佐藤三四郎
東郷外人
平井晴二郎
谷井陽之助
尾崎武洋
樺島正義
鈴木久夫
田賀奈良吉
德田文作

大藤直哉
君島八郎
坂牛義任
田村與吉
久野末五郎
村井茂
山田陽清
大田黒宣三
近新三郎
杉谷茂
中谷郁三郎
本間孝義
荒川參太郎
內田祥三
山東兵藏
太刀川平治
福岡清一郎
最上慶二
伊藤三郎
樺島益三
桑原利英
辻太郎
根橋禎二
萩原俊一
藤井滋香
安田靖一
池內勉
大倉桑馬
鳥取末治郎
松田健作
內田富吉
狩野剛太郎
小宮甲四郎
關口四郎
中村謙介
星野信之
山口龍之助
大島滿一
鹿島精一
澄田勘作
高山節繁
中倉專一郎

大藤高彦
木津正治
紫田畦作
中川實
宮長平作
名井九介
青木元五郎
川地陽一
皿井巖
關場茂樹
新田留次郎
三井助作
今泉茂松
海老塚肅
關新甫
寺澤虎雄
松本良一
有吉大藏
磯海國吉
川庄震吉郎
黑須七郎
戸川嘉吉
野方寅吉
原清明
堀親道
湯川秋生
小田延景
太田實
中桐春太郎
淺見忠次
小山泰交
川江秀雄
小溝茂橘
田中鷹太郎
根來簡二
堀內貞造
海野斐雄
大津道雄
木村憲七郎
田中正夫
瀧山與
新元鹿之助

笠置正
楠宗道
澁江武
糖澤惟介
三瀨幸三郎
用瀨松太郎
石田卓哉
加茂熊三
坂出鳴海
園田中太郎
原靜雄
吉富義助
石川鼎
黑田武定
谷井鋼三郎
濱口正路
正子重三
池田國男
大西清
清岡已九思
清水賢雄
長尾半平
原田信作
藤根壽吉
村越三四郎
渡邊直也
小野龍一
菅原恒寛
橋本正平
市川和市郎
岡村利重
久保田正繼
佐野藤次郎
高橋三郎
野口廣衛
茂庭忠次郎
上原惠迪
沖一誠
坂本丹治
田口俊一
照屋宏
能見光男

原口忠次郎　廣中一之　藤井眞透　堀見末子
堀口勉一郎　松本虎太　三原久　森田松三郎
山田胖　吉村長策　朝倉勳　石川顯一郎
川口虎雄　倉本昌水　野田六次　深瀬恒治
星野一太郎　山内彌次郎　阿川重郎　岡俊雄
岡田竹五郎　牛島航　木村喬　栗原忠三
小池愼藏　久保田豊　佐原辰雄　前田廣治
發地長太郎　遠邑容吉　竹俣一郎　福井薫
筒井丑太郎　蒲生正德　野原彝夫　加賀種二
安永五三二　大杉齡治　中村謙一　土肥憲二郎
小澤義平　愛甲勇吉　青戸信賢

大正十三年度第二期分會費

金六圓　山岸安二

准員大正十一年度第二期分會費

金參圓　兒玉勢一
金貳圓五拾錢　熊城正登

准員大正十二年度第一期分會費

金四圓宛　林政之助　柏谷鴻次郎　沼田政矩
栗原斧衞　尾内庄吉郎　奥村武夫　岩岡武博
岩永藤作

准員大正十二年度第二期分會費

金四圓宛　廣岡宮之助　伊藤覈　阿部一郎
松本一郎　内藤鼎二　新井清　木村良雄
福富喜平　中村勝太郎　林道太郎　長谷川四郎
坪井豊彦　藤原孫七　沼田政矩　田添忠太郎
中川正一　三瀨清夫　河邊義郎　岩岡武博
田原正則　岩永藤作　諸川雄二郎　兒玉勢一
山田敬助　馬場宗光　栗田忠治
金貳圓　陸耕禮　池田來介
金壹圓　渡邊六太郎　後藤憲一

准員大正十二年度第三期分會費

金四圓宛　山本弘　八島茂　廣岡宮之助
伊藤覈　鬼海治三郎　北村嘉太郎　木村博夫
清水知　齋藤欽一　松下宅一　小原秀雄
坪井基　兒島勝已　小田島健三　磯野九一郎
小田桐一雄　藤岡末太郎　福富喜平　酒井勇
君島千代藏　林道太郎　西義一　栗原斧衞
香坂兼夫　有光壬辰　野上卯　中川正一
武田侃弐　後藤一三　中村滿輔　福井友三郎
勝目清二　百瀨泰次郎　田原正則　清水熊雄
内村三郎　岩永藤作　佐々木齋治　片岡桂
柴田明治　柴田悅太郎　三橋寛之　中村修廣

八ヶ代政市　後藤龍雄　中野英明　宗石盛始
杉浦文市
金參圓　渡邊六太郎

准員大正十三年度第一期分會費

金四圓宛　清水知　小原秀雄　磯野九一郎
藤岡末太郎　栗原斧衛　中村滿輔　勝目清二
百瀨泰次郎　遠藤守一　長澤忠郎　速水龍五郎
日比野武雄　紀成中　中川一美　土田富
佐藤聰壽　佐々本齋治　柴田明治　川村瀧三郎
吉野德一郎　槇雄治　白木左都夫　讃井耕三
後藤龍雄　山田敬助　中野英明　宗石盛始
住喜太郎　香坂兼夫　菅原清吉
金貳圓　寺田悌

准員大正十三年度第二期分會費

金四圓宛　百瀨泰次郎　長澤忠郎
金參圓拾七錢　草野源八郎
金貳圓　勝目清二
金壹圓　藤岡末太郎

准員大正十三年度第三期分以降會費

金八圓八拾參錢　草野源八郎

准員大正十三年度第三期分會費

金四圓　長澤忠郎

學生員大正十一年度第二期分會費

金五拾錢　熊城正登

學生員大正十一年度第三期分會費

金貳圓　小堀豊作
金壹圓　今泉佳三郎

學生員大正十二年度第一期分會費

金貳圓五拾錢宛　伊藤茂利三　今泉佳三郎　岡村增次郎
金六拾二錢　黑江重

學生員大正十二年度第二期分會費

金貳圓五拾錢宛　伊藤茂利三　黑江重　爲田不二
西崎忠吉　小堀豊作　鈴木直彦　藤澤仁
吉原正明　島田義章　堀田讓　西田精一
山本貞郎　福森宇三郎　直山寅　前田秀之
井宮和逸　今泉佳三郎　宇野良平　末原盛彦
池上省吾　岡村增次郎
金壹圓貳拾五錢宛　友松退藏　陸耕禮
金六拾貳錢宛　多賀光　中村鏈一郎　水原譽文
金壹圓八拾七錢宛　松本金吾　龜田素

學生員大正十二年度第三期分會費

金貳圓五拾錢宛　芳井忠夫　鈴木直彦　友松退藏

吉原正明　山本貞郎　山本英俊　野中典悦
比企元　今泉佳三郎　末原盛彦　室川典一
龜田素　横田稔　岡村增次郎
金參拾八錢　黑江重

學生員大正十三年度第一期分會費

金貳圓五拾錢宛　芳井忠夫　比企元　池上省吾
佐藤寛　小陳彌一郎

學生員大正十三年度第二期分會費

金貳圓五拾錢　芳井忠夫

學生員大正十三年度第三期分會費

金貳圓五拾錢　芳井忠夫

寄稿に關する注意事項

（1） 御寄稿は成るべく本會の原稿用紙を用ひ横書きとすること、原稿用紙は御請求次第送附す。

（2） 御寄稿は成るべく邦文にて假名は平假名を用ひ句讀點を入れられたきこと。

（3） 地名人名等凡ての外國固有名詞は原語の儘とし尙術語中譯語の紛らはしきもの及數箇の譯語あるものはなるべく原語を記入すること。

（4） 歐字は特に明瞭に認むること。

n と u 又は k, U と v, C と c, K と k, M と m, N と n,

U と u, S と s, V と v, *r* と *v*.,

等の區別には特に御注意せられたきこと。

（5） 新に圖面御作製の場合には次の各項に御注意ありたきこと。

（イ） 添附圖面中の標題及說明用文字等横書きの場合には左より始め右に終ること。

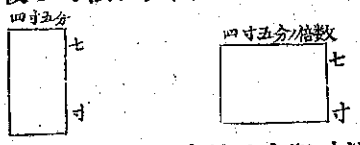
（ロ） 圖面は成るべく其の儘縮寫し得る樣トレーシング・ペーパー、オイル・ペーパー、トレーシング・クロス等に寸法及寸法線等凡て墨線にて明瞭に認むること。

（ハ） 方眼紙に畫きたる圖面にして縱横線を必要とする部分には豫め墨線にて之を畫き置くこと。

（ニ） インキを使用せる圖面又は青色寫眞の類は其の儘縮寫不可能に就き避けられたきこと。

（ホ） 圖面は次に示す如く縱は七寸、横は四寸五分、又は縱は七寸横は四寸五分の倍數に縮寫すべきに就き其の御心組にて御調製されたきこと。

縮寫後の寸法は次圖の如くなるものとす。



尙圖中の寸法其の他說明用文字等は上記寸法に縮寫したる後に於ても明瞭なる樣充分なる大さのものとすること。

（ヘ） 圖面には出來得る限り梯尺 を地圖其の他必要のものには方位を記入されたきこと。

（ト） 圖面は着色にて區別することは成るべく避け墨線にて他の符號を以て區別すること、但し已むを得ざる場合には着色數を少くされたきこと。

（6） 講演論說報告に要する原稿及圖面調製上特に費用を要する場合には御申出あれば本會に於て之を支辨することあるべし。

（7） 講演、論說報告の各欄に掲載の分には拔刷 50 部を贈呈すること。但し夫れ以上は御希望により何部にても實費にて御要求に應じ尙特に彙報欄に掲載の分に對しても同樣御要求に應ずることあるべし。

（8） 講演、論說報告には內容梗概を本文冒頭に添付されたきこと。

（9） 原稿返却御希望の節は其の旨申出られたきこと。

（10） 參考資料御寄稿の際には雜誌名、年號、月日を(Engineering News Record, March 9, 1922 の如く）明記すること。

（11） 講演、論說報告に關する討議は該講演又は論說報告の掲載したる會誌より第五册目の會誌を以て最終締切となすに就き討議御寄稿の節には御注意願ひたきこと。

（12） 本會誌原稿締切期日は凡て奇數の月 (1, 3, 5, 7, 9, 11, 月)の 15 日とす。

算式其の他の記し方大體標準

（1） 本文、文字間に算式を挿入する場合には次の如く記すこと。

a/b と書き$\left\{\frac{a}{b}\right\}$を避けること、$(a+b)/(c+d)$と書き$\left\{\frac{a+b}{c+d}\right\}$を避けること。

（2） 獨立したる列に算式を記す場合には次の如く記すこと。

$\frac{1}{3}x$ と書き$\left\{\frac{x}{3}\right\}$を避けること。$\frac{1}{2}(a+b)$と書き$\left\{\frac{a+b}{2}\right\}$を避けること。

$\frac{a}{b+c/d}$と書き$\left\{\frac{a}{b+\frac{c}{d}}\right\}$を避けること。$\sqrt{x}$又は$x^{\frac{1}{2}}$と書き$\left\{\sqrt{x}\right\}$を避けること。$i$又は$\sqrt{(-1)}$と書き$\left\{\sqrt{-1}\right\}$を避けること。$1/x$又は$x^{-1}$と書き$\left\{\frac{1}{x}\right\}$を避けること。$x^{-n}$と書き$\left\{\frac{1}{x^n}\right\}$を避けること。

（3） 千以上の數字は 53,247,000 の如く記すこと。

（4） 名數は次の如く記し(　)を付たる樣に書くことは避けること。

83.4尺(八丈三尺四寸)。7吋(七吋)。35錢(三十五錢)。13.56圓(十三圓五十六錢)。12時間(十二時間)。1～4時間(一乃至四時間)。88,326噸(八萬八千三百二十六噸)。1920年12月31日(千九百二十年十二月三十一日)。54%(54ぱーせんと)